

事務事業名		コード1	19100	妊婦・乳幼児健康診査事業		課	健康管理課				
		コード2		③1歳6か月児健康診査		所属班	支援班				
						電話番号	57-3113	内線	なし		
政策体系	基本方針	3	健やかでやすらぎのあるまちづくり			予算科目	会計		款	項	目
	施策	1	保健の充実			一般会計		4	1	3	
	施策の展開	4	母子保健の充実			根拠法令	母子保健法				
	基本事業	128	乳幼児健康診査事業								

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☐ 昭和 年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述→	・運動面・精神面の発達遅滞や疾病などの児を早期に発見し、適切な指導を行い、健康を保持・増進していけるようにする。また、生活習慣の自立、むし歯の予防、栄養などの育児に関する相談を行い、保護者の育児不安を軽減する。 ・会場:飯岡保健センター ・自己負担:なし 【業務の流れ】 (事前準備)対象者に健診票通知→経過観察者台帳の作成 (事業前日)会場準備→担当小児科医師へ確認の連絡 (当日)受付→身体計測→集団健康教育(生活リズムの人形劇、卒乳とおやつについて、むし歯予防)→歯科診察→内科診察→歯科指導→保健・栄養指導→発達相談→ケースカンファレンス (終了後)診察結果入力→フォロー者台帳・精密検査者台帳整理→業務報告、未受診者へ再通知

(2)トータルコスト

① 事業費の内訳(24年度の実績)	単位:千円
1報酬	713
2賃金	623
3需用費	74
4役務費	48
5.その他	327
② 延べ業務時間の内訳(24年度の実績)	
単位:時間	
対象者へ健診票発送、経過観察者台帳作成、会場・健診準備、当日健診、片付け、健診結果入力、業務報告、未受診者へ再通知	
延べ業務時間:593時間	

	単位	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (計画)
事業費	1 報酬	千円 828	713	713	575
	2 賃金	千円 735	618	623	793
	3 需用費	千円 74	71	74	72
	4 役務費	千円 55	48	48	48
	5.その他	千円 408	270	327	479
	事業費計(A)	千円 2,100	1,720	1,785	1,967
人件費	うち一般財源	千円 2,100	1,720	1,785	1,967
	正規職員従事人数	人 0.35	0.29	0.29	0.28
	延べ業務時間	時間 707	593	593	565
	人件費計(B)	千円 2,687	2,253	2,253	2,145
トータルコスト(A)+(B)		千円 4,787	3,973	4,038	4,112

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (計画)
	24年度実績(24年度に行った主な活動) 年20回実施。 身体計測、集団健康教育(生活リズムの人形劇、卒乳とおやつについて、むし歯予防)、歯科診察、内科診察、歯科指導、保健・栄養指導、発達相談 25年度計画(25年度に計画している主な活動) 年19回実施。 身体計測、集団健康教育(生活リズムの人形劇、卒乳とおやつについて、むし歯予防)、歯科診察、内科診察、歯科指導、保健・栄養指導、発達相談	⑤ 活動指標名	単位	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (計画)
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか) ア 1歳6か月児の幼児 イ 保護者	ア 1歳6か月児健診実施回数	回	24	20	20	19
		イ 1歳6か月児健診受診者数	人	526	535	501	520
		ウ					
目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか) ア 児の健康を保持し健やかに発育・発達できる。 イ 育児上の悩みや不安を軽減し、よりよい子育てができる。	⑥ 対象指標名	単位	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (計画)
		ア 1歳6か月の幼児数	人	547	558	534	542
		イ					
		⑦ 成果指標名(考え方)	単位	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (計画)
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けられるのか 安心して子どもを産み育てることができる。	ア 1歳6か月児健診受診率 (健診受診者数/健診該当者数)	%	96.2	95.9	93.8	95.9
		イ 子育てが楽しいと感じている保護者の割合(健診票の問診項目で、お子さんととる生活の回答:毎日が楽しい、負担が増えたが楽しい)	%	93.0	95.0	91.0	95.0
		⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (計画)
		ア 出生数	人	539	523	548	550
上位目的		イ ()					

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
母子保健法のもと、市町村において乳幼児の疾病や発育発達上の問題を早期に発見し、適切な支援につなげるために開始された。	合併前は、各市・町で実施していたものを、H18年度から飯岡保健センターのみの実施となっている。健診会場が遠くなったことで受診率の低下が懸念されたが、車社会の現代ではそれ程の影響は無く、健診の意義を理解し90%以上の方が受診されている。 ・市内の小児科医が減り、小児科医の負担が増えており、委託する医師の確保が難しくなっている。	車を運転しない母からは、循環バスの便がもう少し改善されると良いという意見もある。

事務事業名	妊婦・乳幼児健康診査事業 ③1歳6か月児健康診査	課名	健康管理課	班名	支援班
-------	-----------------------------	----	-------	----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	発達の節目の時期であり、この時期に健診を行うことで、子どもが健やかに育つことの一助となる。子どもが健やかに育つことは、家族いいては市民全体がやすらぎを感じるまちとなると考える。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	運動面・言語面での発達の節目の時期であること、法律で定められた時期であることから、現状のままで適切である。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	母子保健法に基づき実施している。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】	受診率90%を超えており、近隣市と同じく高いレベルであるが、更なる受診率の向上を目指す。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するとうか？	☒ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】	未受診者については、翌月に受診するよう再通知し、再未受診の場合は家庭訪問をしている。今の方法に加え、受診の必要性を強調した再々通知を送るなどによって成果が向上する余地がある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他（民間・国県を含む）に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (1) 事務事業名：() (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】	年齢ごとに発達課題等が異なる為、集団教育の内容を合わせることができず、統合する事は困難。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 (表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】	次年度の対象者数の把握により、健診の回数を減らすことができれば、事業費を削減できる。
	⑧ 人件費の削減余地 (表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】	スタッフ全員が揃ってからではなく、健診が早く終わる職種から順番にリーダーが聞き取るなど、カンファレンスの実施方法を工夫する。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	対象者に個別通知をしており、すべての対象者に受診の機会があるので公平・公正である。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 近隣と同じく受診率は高いレベルである。子育て支援の一つとしての母子の健康増進に効果的な役割を果たしていると考ええる。
---	--

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性 ☐ 目的再設定 ☐ 行政関与の見直し ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☐ 事業統廃合・連携(関連事業:) ☒ 事業のやり方改善による事業費削減 ☒ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 受益機会の適正化 ☐ 費用負担の適正化 ☐ 廃止・休止 (3) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上	○																				
	維持																					
	低下																					
(2) 改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？ ①未受診者については、翌月に受診するよう再通知し、再未受診の場合は家庭訪問をしている。今の方法に加え、今年度受診の必要性を強調した再通知のあり方の見直しを図る。 ②次年度の予算組みの時点での対象者数により、今年度内に健診の回数減が可能か検討する。 ③スタッフ全員が揃ってからではなく、健診が早く終わる職種から順番にリーダーが聞き取るなど、カンファレンスの実施方法を検討する。																						
(4) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 ①未受診者は健診自体に対する関心がないのではなく、他の理由があるため、理由に応じた受診勧奨の仕方を検討する。 ②出生率が上がり対象者数増加した場合、健診回数や医師をはじめとするスタッフ数の増加が必要となる。																						